




(11) 病害虫・雑草防除

ア 病害虫発生推移と防除適期について

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考	
旬	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下		
作業・生育状態			春 整 枝	一 番 茶 萌 芽 期	一 番 茶 摘 採	整 枝 番 茶 摘 採	二 番 茶 摘 採			秋 整 枝				
病 害 虫	炭疽病												<ul style="list-style-type: none"> 多発が予想される場合は、開葉期と5~7日後の2回散布を行う。 秋雨が続くような場合には9月にも防除が必要となる。 	
	輪斑病 (新梢枯死症)												<ul style="list-style-type: none"> この病原菌は傷口から侵入する。 輪斑病の防除は摘採後できるだけ早く行う。 新梢枯死症の防除は1~2葉期を中心に行う。 	
	もち病													<ul style="list-style-type: none"> 被覆園で多発傾向にある。 炭疽病との同時防除を心がける。 防除適期は萌芽~1葉期である。 前年に多発した茶園では一番茶後半の発生に注意する。
	チャノコカクモンハマキ													<ul style="list-style-type: none"> 若齢幼虫期に防除する。 チャハマキとの同時防除が可能 予察情報をもとに防除する。
	チャノホソガ													<ul style="list-style-type: none"> 萌芽から開葉期の防除に努める。 巻葉が多くなると製茶品質に悪影響を及ぼすので、園場で巻葉が目立ち始めたら摘採を早める。 予察情報をもとに防除する。
	チャノミドリヒメヨコバイ													<ul style="list-style-type: none"> 夏から秋にかけて多発し、連続防除が必要な場合もある。 夏期高温で晴天が続くと発生量が多い。
	チャノキイロアザミウマ													<ul style="list-style-type: none"> 夏から秋にかけて多発し、連続防除が必要な場合もある。 夏期高温で晴天が続くと発生量が多い。
	チャトゲコナジラミ													<ul style="list-style-type: none"> 防除適期は若齢幼虫期(成虫発生終息後)である。 越冬幼虫への防除を行う。
	クワシロカイガラムシ													<ul style="list-style-type: none"> 地域によって、若干幼虫ふ化期が異なるので、ふ化を確認して防除を行う。 第1世代幼虫ふ化は斉一であり、防除が容易。第2世代での幼虫ふ化は斉一でないために2回散布が必要。この場合1回目を脱皮阻害剤系統、2回目に有機リン剤を用いると良い。 春期防除(1~3月)の薬剤を使う場合、6月、8月の防除は必要ない。
	チャノホコリダニ													<ul style="list-style-type: none"> 展開前の未熟な葉を好み新葉のみを加害する。 微小であり、被害拡大後に本害虫に気が付く場合が多い、カンザワハダニとの同時防除を考慮する。 薬液が芽や葉裏に十分かかるように散布する。
チャノナガサビダニ													<ul style="list-style-type: none"> 主に新葉の葉裏を加害。葉全体が萎縮しひどい場合落葉する。 微小であり、被害拡大後に本害虫に気が付く場合が多い、カンザワハダニとの同時防除を考慮する。 薬液が葉裏に十分かかるように散布する。 	
カンザワハダニ													<ul style="list-style-type: none"> 低密度時の防除を心がける。 晩秋または萌芽前後に越冬成虫の防除を行う。 同一薬剤の連用は避ける。 夏から秋にかけて多発することが多い。 	

 は病害の発生時期、害虫の成虫発生期を示す
 は病害の伝染時期、害虫の幼虫発生期を示す
 は防除適期を示す